

MOTOR SPORTS

CLUB

B

RALLY / GYMKHANA / DIRT TRIAL&more... "EXCITING" MOTOR SPORTS MAGAZINE

VOL.39

**FREE
無料**

Bライセンス
モータースポーツPR
フリーペーパー

**2022年JAF全日本ラリー／ジムカーナ／
ダートトライアル選手権開幕戦ダイジェスト**

オートテストに参加して、モータースポーツを体験しよう！

Bライセンス取得ガイド&全国Bライモータースポーツ競技場ガイド



“新顔”も続々登場。開幕戦からバトル白熱！



モータースポーツ専用の公式Facebookはコチラ
<https://www.facebook.com/YRCmotorsports/>

ADVAN

**2021
CHAMPION**



全日本ラリー選手権
 JN3 Class: ADVAN KTMS ヌタハラRS 86
 Dr.: 大竹 直生 / Co-Dr.: 藤田 めぐみ

**2021
CHAMPION**



全日本ダートトライアル選手権
 JD8 Class: キャッツのYH♀速心☆スイフト
 Dr.: 谷 尚樹

**2021
CHAMPION**



全日本ジムカーナ選手権
 JG4 Class: シンシア YH ワコーズ CRX 艶々
 Dr.: 小武 拓矢

**2021
CHAMPION**



全日本ジムカーナ選手権
 JG3 Class: YH 若林自 ITO 速心 インテグラ
 Dr.: 若林 拳人

**2021
CHAMPION**



全日本ジムカーナ選手権
 JG2 Class: マロヤトレラー S二千 亜舎 YH
 Dr.: 広瀬 献

THANKS! CHAMPIONS!! YOKOHAMA MOTORSPORTS 2021



ADVAN
A050



ADVAN
A0BB



ADVAN
A052



ADVAN
A036



ADVAN
A053



ADVAN
A031



[詳細はこちら]
<https://www.y-yokohama.com/product/tire/hobby/>

YOKOHAMA

[動画はこちら] <https://www.youtube.com/TheYokohamaRubber>

横浜ゴム株式会社 ☎0120-667-520 <https://www.y-yokohama.com> 月に一度は空気圧の点検を



JRC

2022年
JAF全日本ラリー選手権第1戦
新城ラリー2022



JDTC

2022年
JAF全日本ダートトライアル選手権第1戦
FORTEC CUP 2022 in KYOTO～杉尾啓治 17th メモリアル～

2022年

JAF全日本ラリー／
ジムカーナ／ダートトライアル選手権

開幕戦 ダイジェスト & 2022 シリーズ プレビュー



JGC

2022年
JAF全日本ジムカーナ選手権第1戦
SPEED・MASTER・OIL CUP
GYMKHANA IN TSUKUBA



ヘイキ・コバライネン/北川紗衣組は、全日本ラリー最高峰クラスで圧倒的な大差をつけてJN1デビューウィンを飾った。

JRC

波乱の開幕戦。圧巻のスピードを見せたファビアR5のコバライネンが最高峰クラスで衝撃のデビューウィン!

2022年JAF全日本ラリー選手権第1戦 新城ラリー-2022 開催日: 2022年3月18~20日 開催場所: 愛知

2022年の全日本ラリー選手権が、3月18~20日に行われた新城ラリー-2022で開幕した。昨年は第2戦に組み込まれた新城ラリーだが、ウインターラリーとして予定されていた開幕戦がコロナ禍により中止を余儀なくされたため、昨年は実質的な開幕戦を担っていた。

しかし、今年はウインターラリーが全日本選手権として設定されることがなかったため、当初予定通りに開幕戦として開催。ただし新型コロナウイルス感染症の影響により、愛知県がまん延防止等重点措置適用下の期間内での開催となったため、残念ながら今年も無観客開催として行われた。

ラリーのSSは今年も、「鬼久保」、「雁峰」というお馴染みのステージに設定された。19日のLEG1は雁峰北12.75kmを鬼久保6.96kmを挟んで2回走るとい

設定。20日のLEG2は雁峰中12.10kmを2回走った後に再び鬼久保6.96kmにトライしてフィニッシュする、二日間で6本のSS、トータル63.62kmに挑むというラリーとなった。

勝田範彦が昨年、GRヤリスに初の全日本チャンピオンをもたらしたJN1クラスには、昨年JN2クラスのタイトルをトヨタGT86 R3で獲得したヘイキ・コバライネンが、シュコダ・ファビアR5に乗り換えて新たに参戦してくることになった。

スーパーGTでトヨタ系チームのドライバーを長く務めてきたコバライネンは昨シーズン終了後にワークスのシートから降りることを表明。母国フィンランドへ帰国したが、今季は全日本ラリーの活動に専念。フィンランドと日本を往復しながら、全日本ラリー最高峰のクラスを狙うこととなった。

レッキが行われた18日に降った雨が乾き切らない路面でのスタートとなったSS1雁峰北。いきなりベストタイムを奪取したのは6番手スタートだったコバライネンのファビアR5だった。“雁峰マイスター”として知られる勝田はコバライネンから9.2秒遅れの4番手タイムに終わり、今年もファビアR5を駆る福永修、そして、その福永を下してコバライネンから4.3秒遅れの2番手につけた鎌田卓麻に先行を許してしまう。

超高速ステージのSS2鬼久保に移るとコバライネンの走りはさらに磨きがかかって、ここでは2番手の勝田を何とか1秒以上も突き離すスーパーベストをマーク。続くSS3でも大差のベストタイムを刻んで、この日の3SSを完全制覇。2番手の福永に23.1秒の-marginを作ってラリーを折り返した。



最高峰クラス注目の初戦は、シュコダ・ファビアR5が1-2フィニッシュを遂げるという衝撃の幕開けとなった。

全日本ラリーのシリーズの中でも、その道幅の狭さから超タイトなステージとして知られる雁峰、それとは対照的すぎる超高速の鬼久保というまったく性格の異なるふたつのステージで、コバライネンはともに圧巻の走りを見せた。まっ



1. コバライネンと同じくファビアR5を今年もドライブする福永修/齊田美早子組。初戦は2位で終えた。2. GRヤリスで全日本連覇を狙う勝田範彦/木村裕介組は国産車勢1位となるも、3位でフィニッシュ。3. セレモニアルフィニッシュでがっちりと握手を交わしたコバライネン/北川組。



たく隙を見せない速さに誰が喰い込むかが注目されたLEG2では、その最初のSS4雁峰中で、勝田が鬼気迫る走りを見せてコバライネンに僅か1秒差（速報値）で喰らいついて意地を見せたが、後続の選手の走行の際に計時トラブルが発生。

JN6クラスでは、昨年、アクアからヴィッツにチェンジした海老原孝敬/蔭山恵組が終始トップをキープし、全日本初優勝を飾った。

4.6. JN2クラスはタイトル奪還を狙うトヨタGT86 R3をドライブする中平勝也/島津雅彦組が終始リードを保って初戦を制した。5.7. JN3クラスは新型BRZをドライブした竹内源樹/木村悟士組が総合でも6番手に入る好タイムで優勝し、新型BRZに最初の1勝をもたらした。8. JN3の山本悠太/立久井和子組はLEG2でベストタイムを連発。順位も2位に上げてフィニッシュした。9. JN3の86スペシャリスト、山口清司/漆戸あゆみ組は3位で初戦を終えた。10. JN5クラスのチャンピオン候補の一台、大倉聡/豊田耕司組はベスト2本を奪うも2位に甘んじた。11.13. 昨年からのターマック戦で投入したGRヤリスRSでの期待の初優勝を獲得した天野智之/井上裕紀子組は連覇に向けて好スタートを切った。12.14. JN4クラスは今年からZC33Sスイフトに乗り換えた筒井克彦/古川智崇組が、スイフトスポーツでのデビューウィンを達成。15. 激戦区JN5クラスの3位には渡部哲成/橋本美咲組のヤリスCVTが入賞した。

全車、キャンセル扱いとなり、幻のセカンドベストとなってしまふ。

続くSS5雁峰中、SS6鬼久保でもベストタイムを譲らなかったコバライネンは、2番手を守った福永に50秒を超える大差をつけてフィニッシュ。LEG1、LEG2ともトップで上がったことでフルポイントマーク。初戦から大きなアドバンテージを築いてシリーズリーダーの座に立った。

一方、9台が参加したJN3クラスは、昨年、新型BRZをいち早く持ち込んだ竹内源樹がSS1で後続を20秒も突き離すべ

ストタイムで上がって首位に立つ。竹内は続くSS2もベストを奪取。SS3では今年から再び86をドライブする山本悠太が竹内を2.1秒差で下すベストをマークするが、竹内は2番手の山口清司に27.8秒の大差をつけて折り返した。

LEG2では山本がSS3の速さをキープしてSS5、SS6と連続ベストをマーク。山口を抜いて2番手に上がったが、LEG1での遅れが響いて竹内を脅かすことはできず。竹内が新型BRZに全日本ラリー初の1勝をもたらし、その高いポテンシャルを見せつけた。

2022年JAF全日本ラリー選手権第1戦 新城ラリー2022 優勝者

JN1クラス	Heikki Kovalainen/北川 紗衣	AICELLOラックDL速心FABIA R5
JN2クラス	中平 勝也/島津 雅彦	DL SYMS R-ART 86 R3
JN3クラス	竹内 源樹/木村 悟士	YH CUSCO 大阪冷研 BRZ
JN4クラス	筒井 克彦/古川 智崇	TEAM221 DL SH スイフト
JN5クラス	天野 智之/井上 裕紀子	豊田自動織機・DL-GRヤリスRS
JN6クラス	海老原 孝敬/蔭山 恵	スマッシュ DL itzz ヴィッツ

今年の全日本ラリー選手権は、全10戦が通例だったここ数年から減少し、計8戦のシリーズが予定されている。8戦中6戦がターマック(舗装)で、2戦がグラベル(未舗装)。グラベルラリーはいずれも北海道で開催される。

3月に開幕したばかりの今年の全日本ラリーだが、6月までの3か月の間に実に過半数の5戦が開催されるとあって、北海道のグラベル連戦を前にシリーズの趨勢が決まってしまうことも十分にあり得るかもしれない。特に今年から車両を乗り換えたドライバーにとっては、いかに3か月の舗装5連戦の間でニューマシンを手なづけることができるかが、ポイントになってくるだろう。

JN1クラスは、ニューカマーのヘイキ・コバライネンがいきなり衝撃的なスピードを見せたことで、昨年とは勢力図が大きく変わってくるかもしれない。残る前半の舗装4連戦の内、昨年は3戦で福永修のシュコダ・ファビアR5が優勝を飾ったことから知れるように、ファビアR5勢の優勢は動かないかもしれない。

GRヤリス勢も昨年終盤で勝田範彦が2連勝を遂げたことから分かるように、R5勢との差を埋めつつあるが、コバライネンが今回見せたようなワンランク上のスピードを今後も維持するようなことになれば、ワンサイドゲームで終わってしまう可能性もある。国産車勢の奮起に期待したいところだ。

JN2クラスは中平勝也が大方の予想通り、開幕戦を制した。ルノー・クリオ・



2022 JRC

2022年JAF全日本ラリー選手権シリーズプレビュー

PREVIEW

コバライネンの快走を止めるのは誰か!? 最高峰JN1の戦いに要注目

ラリー 4でエントリーしていた横嶋良はマシンが間に合わず、やむなく欠場となったが、次戦以降はこの注目のラリーカーのポテンシャルを見せつけてくれるはずだ。速さのあるドライバーだけ

に、中平とのガチンコバトルを期待したい。またGRスープラで全日本に参戦したAKIRAのスピードも要注目だ。

JN3クラスは新型BRZの竹内源樹が初戦を制した。新型GR86/BRZは全日本ジムカーナや全日本ダートラでも開幕戦からその速さを証明しつつあるだけに、竹内を軸としたタイトルレースが展開されることになるだろう。ライバルとなる山本悠太や山口清司もGR86/BRZへの移行を検討中だけに、新型勢が揃い踏みすれば一気にこのクラスの戦いもヒートアップするかもしれない。

2022年JAF全日本ラリー選手権 日程

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦	3月18~20日	新城ラリー 2022	愛知 (250) 舗装
第2戦	4月1~3日	ツール・ド・九州 2022 in 唐津	佐賀 (350) 舗装
第3戦	4月29日 ~ 5月1日	久万高原ラリー	愛媛 (250) 舗装
第4戦	5月20~22日	RALLY TANGO	京都 (300) 舗装
第5戦	6月10 ~ 12日	MONTRE 2022	群馬 (360) 舗装
第6戦	7月8~10日	2022 ARK ラリー・カムイ	北海道 (500) 未舗装
第7戦	9月9~11日	RALLY HOKKAIDO	北海道 (800) 未舗装
第8戦	10月14~16日	第49回M.C.S.Cラリー・ハイランドマスターズ2022	岐阜 (400) 舗装

※開催場所 () 内の数字はラリーのトータル距離。

今年の全日本ラリー選手権は開幕から3か月で舗装5連戦を消化するというハードなスケジュールとなっている。開幕戦から僅か2週間のインターバルで行われる第2戦唐津は、今年もお馴染みのターマックステージが待ち受ける一戦となる。昨年、事実上の最終戦として行われた第3戦久万高原は、今年もLEG2に20kmを超えるSSが予定されており、トータルも100kmを超えるサバイバルな一戦となりそうだ。第4戦RALLY TANGO(ラリー・丹後)は多彩なターマックステージが待ち受けるラリーとなる。第5戦MONTRE(モントレー)と第7戦RALLY HOKKAIDO(ラリー北海道)はFIAアジア・パシフィックラリー選手権(APRC)のタイトルも懸けられた一戦となるため、通常の全日本ラリーよりもスケールアップしたイベントとなることが予想されている。

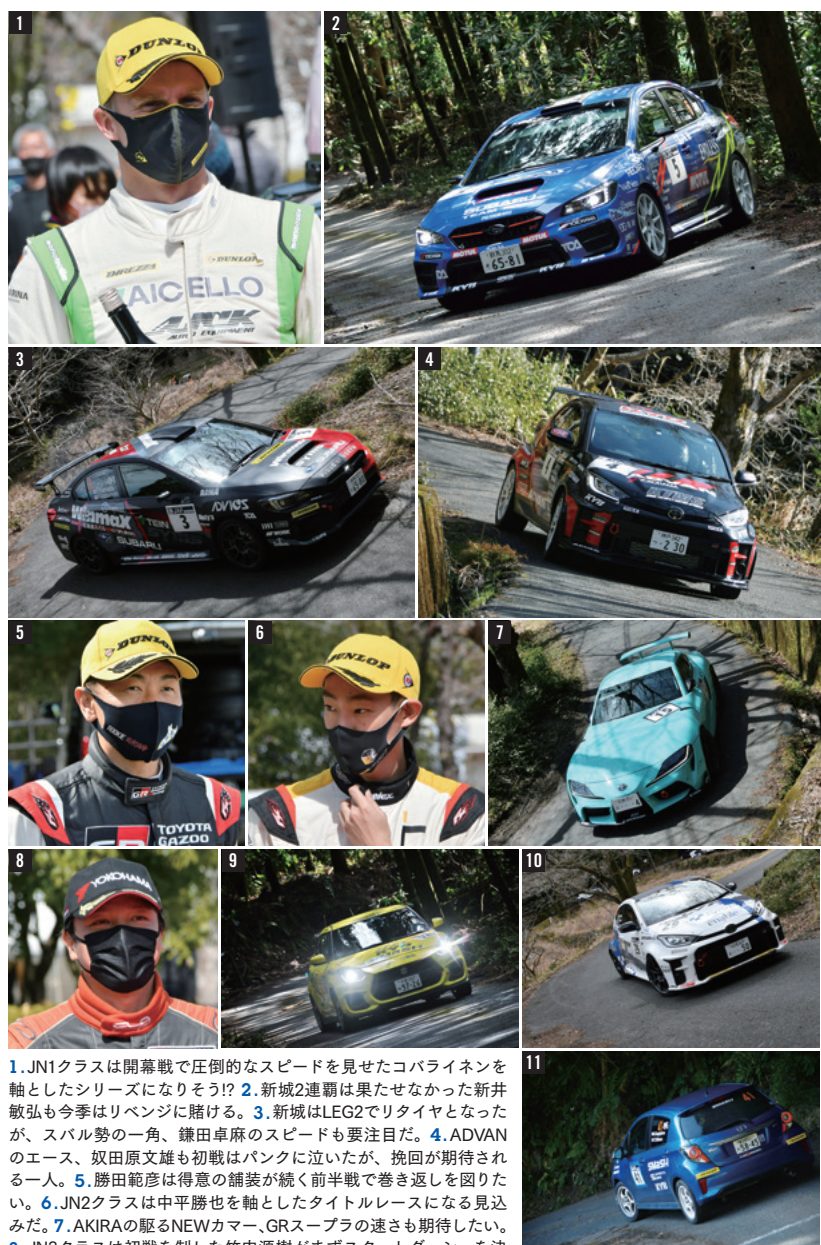
今年もZC33Sスイフト勢によるチャンピオン争いが展開されそうなJN4クラスは昨年の王者、西川真太郎がSS1でコースオフにより大きくタイムロス。開幕戦では筒井克彦に勝利を譲ったが、マシン修復なったLEG2では断トツの速さを見せた。西川にとっては、昨年最大ライバルとなったチームメイトでもある須藤浩志の動きが今年も気になる所だが、まずは残る舗装4連戦を取りこぼさないことが当面の課題となりそうだ。

JN5クラスは、開幕戦ではヤリスCVTが上位3位を独占した。GRヤリスRSとFFヤリスの速さを証明する形となり、タイトルレースも天野智之、大倉聡、渡部哲成という今回のトップ3を軸とした展開になりそうだが、昨年のJN6クラスチャンピオンの吉原将大や、今回のLEG2で3位に入った中井育真などの注目の若手も上位を狙ってくるはずだ。

AT/CVT車が対象のJN6クラスは、このクラスの第一人者である海老原孝敬が順当に初戦を制したが、開幕戦の高速SSの鬼久保ではレーシングドライバーでもある佐藤セルゲイビッチが2本ともベストタイムを奪った。ステージによっては佐藤の速さが上回ることが予想されるだけに、海老原にとっても予断を許さない一年になりそうだ。



コバライネンの所属するラリーチーム・アイセロも徐々にチーム力を強固なものにしているだけに、今後の動向が注目される。



1. JN1クラスは開幕戦で圧倒的なスピードを見せたコバライネンを軸としたシリーズになりそう!? 2. 新城2連覇は果たせなかった新井敏弘も今季はリベンジに賭ける。3. 新城はLEG2でリタイアとなったが、スバル勢の一角、鎌田卓麻のスピードも要注目だ。4. ADVANのエース、坂田原文雄も初戦はパンクに泣いたが、挽回が期待される一人。5. 勝田範彦は得意の舗装が続く前半戦で巻き返しを図りたい。6. JN2クラスは中平勝也を軸としたタイトルレースになる見込みだ。7. AKIRAの駆るNEWカマー、GRスープラの速さも期待したい。8. JN3クラスは初戦を制した竹内源樹がまずスタートダッシュを決めた。9. JN4クラスは王者、西川真太郎がV2に挑む。10. JN5クラスはCVTのGRヤリスRSを駆る天野智之が「絶対王者」の座を守れるかが焦点だ。11. JN6クラスは初戦を制した海老原孝敬を軸とした戦いとなるだろう。



モントレー(12.)とラリー北海道(13.)はAPRCのタイトルが懸けられながらも、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2年連続でAPRCの開催は断念しているだけに、今年こそは外国からの遠征組も含めた賑やかな大会となることが期待されている。



有力ドライバーが相次いでマシンを乗り換えて、その速さが注目を集めるJG1クラスは、ランサーエボXを引き続きドライブする菱井将文が開幕戦を制した。

JGC

今年の全日本ジムカーナは筑波コース1000でスタート。
注目を集めたNEWマシンのデビュー戦の結果はいかに!?

2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第1戦 SPEED・MASTER・OIL CUP GYMKHANA IN TSUKUBA
開催日：2022年3月12～13日 開催場所：筑波サーキット・コース1000(茨城県下妻市)

今年の全日本ジムカーナ選手権開幕戦の舞台となったのは、茨城県の筑波サーキット・コース1000。筑波での開催は同じく開幕戦を担当した2019年以来で、3年ぶりの開催となった。

コースレイアウトはコース1000の通常のコースを走りつつも、ショートカットやコース幅のある直線部分にはパイ

ロンセクションを設定したりと独自のコース設定を用意した。またAT車を対象とするJG10クラスについては、レバー式パーキングブレーキ非装着の車種が多いことなどから、360度ターンなどを省略した設定を別に用意した。

昨年から新設されたそのJG10クラスは、参加が9台と昨年の開幕戦からほぼ倍増したが、9台の車種がすべて異なる

という多士済々のクラスとなった。そしてここで圧巻のスピードを見せたのは、山野哲也のアルピーヌA110Sだった。

前日の公開練習からライバルの度肝を抜くタイムを記録していた山野哲也は、この日も第1ヒートで2番手につけ

た河本晃一の新型のBRZを3秒も突き離すベストタイムをマーク。第2ヒートでも自らのタイムを約1.3秒詰めて、タイムを上げられなかった河本との差をさらに広げて優勝。今年から投入したアルピーヌA110Sに全日本デビューウィ

1.4. バリエティに富んだ車種が集ったJG10クラスは、今年からアルピーヌA110Sで、このクラスに参戦する山野哲也が圧倒的な速さを見せて優勝を飾った。2.3. 新型GR86/BRZ勢の参戦で俄然、注目を集めるJG7クラスは、今季からアバルト124スパイダーを駆る若林隼人が初戦を制した。5. JG8クラスは2年ぶりの王座返り咲きを狙う斉藤邦夫が第1ヒートのタイムで逃げ切った。





ンをもたらした。

出走25台と今回最多のエントリーを数えたJG7クラスは、新旧の86/BRZやZC33Sスイフトといった、いま国内のジムカーナ界でも最も旬なクルマ達が集うクラスだ。しかしそうした注目マシンを抑えて第1ヒートでトップに立ったのは今年からアバルト124スパイダーに

乗り換えた若林隼人だった。

若林は第2ヒートでもタイムアップ。1分23秒台に叩き入れてライバルにプレッシャーをかける。第1ヒートで3番手だった期待の若手、奥井優介がタイムを詰めるが、24秒の壁は突破できず、結果、圧巻のタイムをマークした若林が優勝を飾った。

6.8. GRヤリス勢によるバトルが予想されるJN5クラスは昨年の最終戦を制した朝山崇が優勝し、幸先の良い1勝を挙げた。7. 昨年のチャンピオン、小武拓矢が抜けて混戦が予想されるJG4クラスは、合田尚司が第1ヒートのタイムで優勝した。9.10. DC2インテグラが牙城を守ってきたJG3クラスは、ZC33Sスイフトを駆る澤平直樹がインテグラの西井将宏を僅差で抑えて久々の優勝を飾り、SA車両のZC33Sスイフトスポーツに全日本初勝利をもたらした。11.12. JG6クラスは、ロードスター RFを駆るディフェンディングチャンピオンのユウがライバルを寄せ付けず、優勝。13. JG1クラスは、3年ぶりのタイトル奪還を狙う菱井将文が、まず初戦を制した。

一方、若林隼人の弟である若林拳人は昨年、DC2インテグラでチャンピオンを獲得したJG3クラスからJG2クラスへ移行。マシンもロータス・エキシージを新たに駆る。昨年、圧倒的な成績でこのクラスを制した広瀬献のS2000とのバトルは第1ヒートから、この2台のみが1分21秒台に入れる異次元バトルに。結果は第2ヒートで僅かにタイムを落とした若林に対して広瀬が約0.4秒のタイムアップを果たすが、若林の1本目のタイムには及ばず。若林兄弟は初戦からふたりそろって優勝という派手な活躍を見せた。

大会のトリを務めるJG1クラスは、王者津川信次や、西原正樹、大橋渡という有力ドライバーが揃ってニューマシンを投入し、俄然、注目が集まった。しかしニューマシンのデビューウィンを狙った彼らの野望を阻止したのは、ランサー・エボリューションXでの残留を決めた名手、菱井将文だった。

第1ヒートで頭一つ抜け出す1分20秒128をマークした菱井は第2ヒートでは20秒の壁をただ一人突破する1分19秒822でゴール。第1ヒートの菱井のタイムを破ったGC8インプレッサの大橋の追撃を退け幸先の良い1勝を飾った。



JG2クラスは、CR-X、インテグラで全日本タイトルをさらってきた若林拳人が初ドライブとなるロータス・エキシージでいきなりの優勝を果たした。

2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第1戦優勝者

JG10クラス	山野哲也	EXEDY 12D A110S
JG8 クラス	斉藤邦夫	ADVAN ロードスター
JG7クラス	若林隼人	YH若林自動車コソリ速心124
JG6クラス	ユウ	BSitzNTLロードスター
JG5クラス	朝山崇	DLBPF速心RSKヤリスLF
JG4クラス	合田尚司	YH@シビックATS速心BPF
JG3クラス	澤平直樹	YHボレロBBRクスコスift
JG2クラス	若林拳人	YH若自速心コソリZRエキシージ
JG1クラス	菱井将文	BSレイズ・クスコランサー

2022年のJAF全日本ジムカーナ選手権がいよいよ開幕した。10月第2週の最終戦まで、全8戦のシリーズが始まった。昨年と同数の開催数ながら、今年は筑波、TAMADA、イオックスが復活。そして岡山国際サーキットも久々の復活開催となったため、全8戦中、半数の4戦が開催場所が入れ替わった形だ。特に岡山国際は、過去、レーシングコースのメインストリート上にパイロンを置いて競うハイスピードジムカーナバトルが展開されてきたコースだけに、そのコースがまず注目を浴びるだろう。今年の各クラスの行方をちょっと展望してみることにしよう。

JG10クラスは参加台数が増え、昨年以上の盛り上がりを見せそう。全日本ジムカーナを代表するスタードライバー山野哲也を始め、その山野と何度か名勝負を繰り広げてきた河本晃一、そして山野の実弟でレーシングドライバーでもある山野直也など実力派が揃ってこのクラスに参戦してきた。開幕戦を見る限り、山野哲也のアドバンテージは大きいものがあるが、ライバルの奮起を期待したいところだ。

JG8クラスは斉藤邦夫が開幕戦を制した。斉藤と今回3位に入った箕輪雄介、そして小林キウテンのADVAN勢は昨年、3人で6勝を挙げながらも、ダンロップの川北忠に王座を譲った。今年は必勝態勢をさらに固めるはずだ。

JG7クラスも注目のクラスで、開幕戦は124スパイダーの若林隼人が制した。新型GR86/BRZ勢は勝利を逃したものの、まだセッティング途上の選手が多いため、真価を発揮するのはこれからだろう。乗り換えたドライバー陣も松本敏、天満清、そして若手No.1の速さを誇る奥井優介と実力者が揃うだけに巻き返しは必至だ。

JG6クラスは昨年、タイトルを争ったユウ、野島孝宏の二人がともに残留した。今年もこの二人を軸とした戦いになりそう



2022 JGC

2022年JAF全日本ジムカーナ選手権シリーズプレビュー

PREVIEW

ここ数年にない動きの激しい一年に。
各クラス、最終戦まで混戦が続くか!?

が、開幕戦では関東の新鋭、大多和健人がこの二人の間に割って入った。今後の活躍が期待されるところだ。

JG5クラスは、昨年、茅野成樹と最終戦まで王座を争った奥井優介がJG7クラスに移行したため、王者茅野が大本命だが、昨年の最終戦でこの二人を尻目に優勝をさらった朝山崇が開幕戦を制した。茅野は関東のテクニシャン、片山誠司にも敗れて3位でのスタート。朝山、片山というチャンピオン経験者が攻勢に出る一年になるかも

れない。

JG4クラスは昨年のチャンピオン小武拓矢がZC33Sスィフトにチェンジし、JG3クラスへ移ったため、今年は本命不在の年に。実績ではベテラン山越義昌のCR-Xがリードするが、開幕戦はEK9シビックの合田尚司が制した。CR-Xvsシビックというホンダ車バトルにも注目したいクラスだ。

JG3クラスも王者、若林隼人がクラスを替えたため、混戦が予想されるが、開幕戦は多数派のDC2インテグラをZC33Sの澤

平直樹が抑え込んだ。澤平、小武、高江淳のスィフト勢と、熟成が図られたインテグラ勢の激しいバトルが毎戦続くかもしれない。

JG2クラスはタイトル防衛を狙う広瀬献に若林拳人が真っ向から勝負を挑む。昨年のようなワンサイドゲームに持ち込めないとすれば、広瀬には試練の年となりそう。

JG1クラスは、ランエボマイスターの津川信次が遂にGRヤリスにチェンジ。名手、西原正樹もスバル車からGRヤリスに転向した。敢えて初代インプレッサを選択した改造車の名チューナー大橋渡とともども、そのマシンの進化ぶりに注目が集まりそう。開幕戦を制した菱井将文のエボXが先行逃げ切りに持ち込めるかも大きなポイントになるだろう。



JG10クラスの開幕戦はアルビノA110、新型BRZ、現行スィフトスポーツが表彰台を占めた。第2戦以降の顔触れはまだ予想がつかない。



JG1クラスはGRヤリスに乗り換えた津川信次のタイトル防衛が注目。GRヤリスをいち早く仕上げることであれば、その可能性は一気に上がる。



1. 山野直也がJG10クラスに持ち込むマクラーレン600LTの今後の速さには要注目。2. 河本晃一はBRZ ATをチョイス。JG10開幕戦では2位を得た。3. 今季は体制を一新した川北忠はJG8クラスでV2を狙う。4. 5. 6. 地区戦でも活躍を見せ始めている新型GR86/BRZ。奥井優介(4. 6.)、天満清(5.)はともにGR86を選択して、JG7クラスに新たに参戦する。7. 茅野成樹は今年もGRヤリスで全日本連覇を狙う。8. CR-Xからマシンチェンジした全日本V2中の小武拓矢の走りも楽しみだ。9. 初ドライブとなったロータス・エキシージでいきなりの優勝を飾った若林拳人は今季はJG2クラスに移り、JG7クラスの兄の隼人とともにダブルチャンピオンを狙う。10. 昨年、初の全日本タイトル獲得のJG2クラス、広瀬献は今年もS2000でV2に挑む。11. 今年からBRIDEカラーのGRヤリスを駆るJG1の津川信次。注目の初戦は3位で終えた。

2022年JAF全日本ジムカーナ選手権 日程

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦	3月12~13日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第1戦 SPEED-MASTER OIL CUP GYMKHANA IN TSUKUBA	筑波サーキットコース1000
第2戦	4月16~17日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第2戦 オールジャパンジムカーナ イン エビス	エビスサーキット西コース
第3戦	5月7~8日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第3戦 MAZDA SPRIT RACING CUP in TAMADA	スポーツランドTAMADA
第4戦	6月4~5日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第4戦 ALL JAPAN GYMKHANA in 名阪 まほろば決勝	名阪スポーツランドCコース
第5戦	6月25~26日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第5戦 北海道オールジャパンジムカーナ	オートスポーツランドスナガワ ジムカーナコース
第6戦	7月23~24日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第6戦 全日本ジムカーナ in 岡山国際サーキット	岡山国際サーキット
第7戦	9月17~18日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第7戦 オールジャパンジムカーナin九州	スピードパーク恋の浦
第8戦	10月8~9日	2022年JAF全日本ジムカーナ選手権第8戦 SUPER GYMKHANA IN IOX-AROSA	イオックスアローザスポーツランド

第1戦筑波/本コースのコース2000に隣接するコース1000が全日本ジムカーナの舞台になる。サーキットコースを使用しているジムカーナゆえアベレージスピードは高い。第2戦エビス/昨年は事実上の最終戦として開催されたが、今年は例年開催される4月の開催に戻った。筑波同様、コース内のショートカットを使用してレイアウトをアレンジする。第3戦TAMADA/3年ぶりに復活する広島市のミニサーキット。ストレート上にパイロンセクションを設けるなど毎回、工夫を凝らしたコース設定を行う。第4戦名阪/近畿ジムカーナ界のメッカとも言えるミニサーキット。近年はフリーターン等の、ドライバーの腕が試される難易度の高い設定も用意されている。第5戦スナガワ(写真12.)/石狩川の河川敷にあるミニサーキット。コースはフラット。ゴール前に連続して設定されるパイロン区間が勝負所になる。第6戦岡山国際/唯一、レーシングコースでの開催となるジムカーナ。高いギャでの高速スラロームなどが待ち受ける。第7戦恋の浦(写真13.)/九州を代表するミニサーキットで、高低差に富んでいるのが特徴。コース上段は広場となりタイトなパイロン区間が設定される。第8戦イオックス/スキー場の駐車場にパイロンでコースを設定するが、前半は中高速のターンが連続することが多い。



参加18台と今大会の激戦区となったJD4クラスは、ランエボマイスターの荒井信介が初戦を制した。



JDTC

全日本ダートラは今年も京都からスタート。130台を超える精鋭達が、いきなり全開バトルを展開!

2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第1戦 FORTEC CUP 2022 in KYOTO~杉尾啓治 17th メモリアル~ 開催日: 2022年3月19~20日 開催場所: 京都コスモスパーク(京都市右京区)

2022年の全日本ダートトライアル選手権は、昨年に続いて京都コスモスパークでシリーズの開幕を迎え、エントリー 134名の精鋭達が10クラスに分かれて熱いバトルを展開した。

参加18台とJD4クラスと並んで最多エントリーを数えたJD9クラス。ヘビー

ウェットな路面で果敢なアタックを見せた田中淳平のスイフトスポーツが1分49秒187で第1ヒートはトップに立つが、路面が好転した第2ヒートになると、1分47秒台までベストタイムは塗り替えられ、シードゼッケン勢のトライを迎えた。

ヤリスの川島秀樹が1分47秒107までベストを詰めるが、ラス前の工藤清美のフィットが一気に1分45秒台に叩き入れる。勝負あったかと思われたが、意地を見せたのは2021チャンプの太田智喜。工藤のタイムを約0.5秒塗り替えて逆転を果たし、V2に向けて幸先の良い

スタートを切った。

86/BRZの事実上のワンメイククラスとなっているJD7クラスも、16台が参加して活況を呈した。注目の新型GR86/BRZは半数の8台がエントリーし、虎視眈々と表彰台の頂点を窺う。第1ヒートで暫定ベストをマークしたのは昨年の最終戦を制した崎山晶。マシンは前期86だ。しかし、このクラスも第2ヒートに入ると仕切り直しとなり、各選手、タイムを更新する。



1. JD11クラスはスイフトスポーツATを駆る則信重雄がクラスデビューウィンを飾った。2. JD9クラスは全日本2連覇を狙う太田智喜が貴族の走りで見せて土壇場で逆転優勝を飾った。3. JD8クラスでもディフェンディングチャンピオンの谷尚樹が1本目のミスを帳消しにする走りを見せて土壇場で逆転優勝を飾った。4. JD11クラス表彰の各選手。5. JD9クラス表彰の各選手。6. JD8クラス表彰の各選手。7. JD6クラス表彰の各選手。



8



この中、GR86の竹本幸広が第1ヒートの自らのタイムを8秒以上も更新する1分44秒300を叩き出してトップに躍り出る。しかしこのタイムを上回ったのは崎山で44秒134をマークして優勝へのハードルを吊り上げた。残るは昨年のチャンピオンでGR86を投入してきた山崎利博。だが、44秒後半にとどまって新型マシンのデビューウィンは果たせず、3位。崎山がまず新型勢を抑え込んで、優勝を果たした。

JD4クラスは、ただ一人、第1ヒートで



1分35秒台に乗せた北村和浩が暫定トップに立ち、ディフェンディングチャンピオンの貫禄を見せる。このクラスは第2ヒートに入ると33秒台の首位攻防戦となり、シードゼッケンの荒井信介が33秒268までタイムを上げて、ラストゼッケン北村の走りを待った。しかし北村は何と34秒後半でゴールして、まさかの7位。王座返り咲きを狙う荒井に先行を許す勝利を献上することになった。このクラスはランサーが上位3台を独占したが、4位にはGRヤリスの黒木



9



8. JD7クラスは中部の崎山晶が優勝し、念願のタイトルへ好発進。9. JD5クラスでは昨年のチャンピオン、細木智矢が第1ヒートの3番手から逆転を果たした。10. JD5クラス表彰の各選手。11. JD4クラス表彰の各選手。12. JD3クラス表彰の各選手。13. JD2クラス表彰の各選手。14. JD1クラスは炭山裕矢が、第2ヒートで1分30秒台に乗せる断トツのタイムをマークして、オーバーオールウィン。15. JD6クラスでは地元近畿のテクニシャン、西田裕一がランサーエボX勢の追撃をかわして優勝。16. JD3クラスでもコスモスホームコースとする山崎迅人が頭一つ抜け出すタイムで優勝。17. JD2クラスは唯一のスパルユーザーの亀田幸弘が幸先の良い1勝を挙げた。

陽介が入賞。表彰台にあと一步に迫る走りを見せている。

大会のトリを務める最速のJD1クラスは、昨年、シリーズ3位の鎌田卓麻が全日本ラリーと重なったため不参加とやや寂しい顔ぶれとなったが、スーパーな改造車達が熱い走りを見せた。2ヒ-

ともベストタイムを奪ってまず開幕戦を制したのは全日本3連覇中の炭山裕矢。結果だけを見れば快勝だが、実は前日にエンジントラブルが発生。急遽、夜間に載せ換え作業をして出場という薄氷の勝利だった。次戦以降のライバルの巻き返しが注目される所だ。

CUSCO & WinmaX & DUNLOP 2022年Bライセンス競技若手育成支援プログラムの2022年度サポート選手が決定

国内Bライモータースポーツ競技の名門、CUSCO（株式会社キャロッセ）が、DUNLOPとの共同企画として2020年より始めた若手育成プロジェクトは、3年目を迎えた今年、新たにWinmaXブランドを展開するエムケーカシヤマ株式会社の協力を得て、「CUSCO & WinmaX & DUNLOP 2022年Bライセンス競技若手育成支援プログラム」として継続されることとなった。そしてこのほど新たなサポート選手が発表された。



このプログラムはBライセンス競技に参加する若手ドライバーへのサポートを通してBライ競技の活性化、モータースポーツ振興に貢献するというもので、昨年はサポート選手が目黒亮が全日本ダートトライアル選手権JD2クラスでチャンピオンを獲得。今季も連覇を狙う（写真）。また全日本ジムカーナ選手権JG5クラスでは同じくサポート選手の奥井優介が昨年、タイトル争いの末にシリーズ2位に入るなど、その試みが早速、実を結んだ一年となった。

サポート選手にはプログラム規定に基づきタイヤ、競技用パーツ（車高調サスキット、LSD）、ブレーキパッドが貸与されるほか、エントリー費についても一部補助が受けられる。

現在、コロナ禍の中で競技を続けることは、若手選手にとっては特に難題となっているが、このプログラムへの参加を通して一人でも多くの選手がステップアップの道を進むことを期待したいところだ。

サポート選手

氏名	参戦予定カテゴリー	参戦車両
奥村大地	全日本ラリー	スィフトスポーツ
笠原彰人	全日本ラリー	ヴィッツ
寺田みつ	全日本ダートトライアル	86
浦上真	全日本ダートトライアル	86
三枝聖博	全日本ダートトライアル	BRZ
堀隆成	全日本ジムカーナ	GRヤリス
小野圭一	全日本ジムカーナ	ロードスター
黒崎滯音	全日本ジムカーナ	NOTE e-POWER
岩堀巧	地方戦ラリー中国・四国	GRヤリス
井之上優	地方戦ラリー東日本	インテグラ
石丸勝一	地方戦ラリー東日本/関東	TBA
大須賀智史	地方戦ダートトライアル関東	スィフトスポーツ
鶴岡義広	地方戦ダートトライアル関東	スィフトスポーツ
奈良勇希	地方戦ダートトライアル中部	スィフトスポーツ
小平美沙季	地方戦ジムカーナ中部	ロードスター
深川敬也	地方戦ジムカーナ中部	ロードスター
菱田真也	地方戦ジムカーナ近畿	86

今年の全日本ダートトライアル選手権は、四国を除く全国7地区で一戦ずつ開催される全7戦のシリーズが予定されている。最終戦は昨年同様、広島のパナソニックスタジアムで、10月の第1戦まで約6か月半のシリーズが今回の京都コスモスパークから始まった。

昨年、新設されたJD11クラスはAT/CVT車を対象としたクラス。BRZのAT車でタイトルを獲得した小関高幸が新型BRZのAT車に乗り換え、JD7クラスに移行したため、本命不在の年となる。小関のBRZを受け継いだ佐藤秀昭や、昨年シリーズ2位につけた寺田伸を軸とした戦いになるかと思われたが、開幕戦を制したのはZC33Sスイフトスポーツで今季から参戦を開始した則信重雄。86/BRZvsスイフトスポーツという新たなバトルが展開されそうだ。

JD9クラスも、デミオの太田智喜が昨年、これまで主流派のマシンだったZC32Sスイフトスポーツを下して王座を奪取したことで勢力図が変わりつつある。開幕戦では遂にスイフト勢は表彰台を逃し、太田のデミオ、工藤清美のフィット、川島秀樹のヤリスが上位を独占した。FFマイスターとして知られる工藤、川島がどこまで太田を追撃できるかが焦点となるだろう。

JD8クラスは今年もZC33Sスイフトスポーツ勢による戦いとなりそうだが、開幕戦は昨年のチャンプ谷尚樹が制した。中島孝泰、永田誠といった昨年、優勝を果たしたベテラン達の奮起が期待される。

JD7クラスは早くも新型GR86/BRZ



2022 JDTC

2022年JAF全日本ダートトライアル選手権シリーズプレビュー

PREVIEW

各クラスとも、2021チャンピオン達が残留 盤石の速さを見せてタイトル防衛なるか!?

勢が開幕戦で2、3位に入り、そのポテンシャルを見せつけた。前期86を手なづけ、開幕戦を制した崎山晶と、2021王者の山崎利博を始めとする新型勢が最終戦まで激しいバトルを展開しそうだ。

JD6クラスは、昨年、最終戦まで王座を争った北條倫史、岸山信之の2台を尻目に、シリーズ3位だった西田裕一が開幕戦では快勝した。西田としては北條、岸山との三つ巴に持ち込みたいところだが、満を持してGRヤリスを投入した岸山の走りにも注目が集まっている。

JD5クラスはタイトル防衛を狙う細木智矢がまず開幕戦を制したが、ともに王座奪回を狙うMR2の葛西キャサリン伸彦、ミラーズの古沢和夫も上位につ

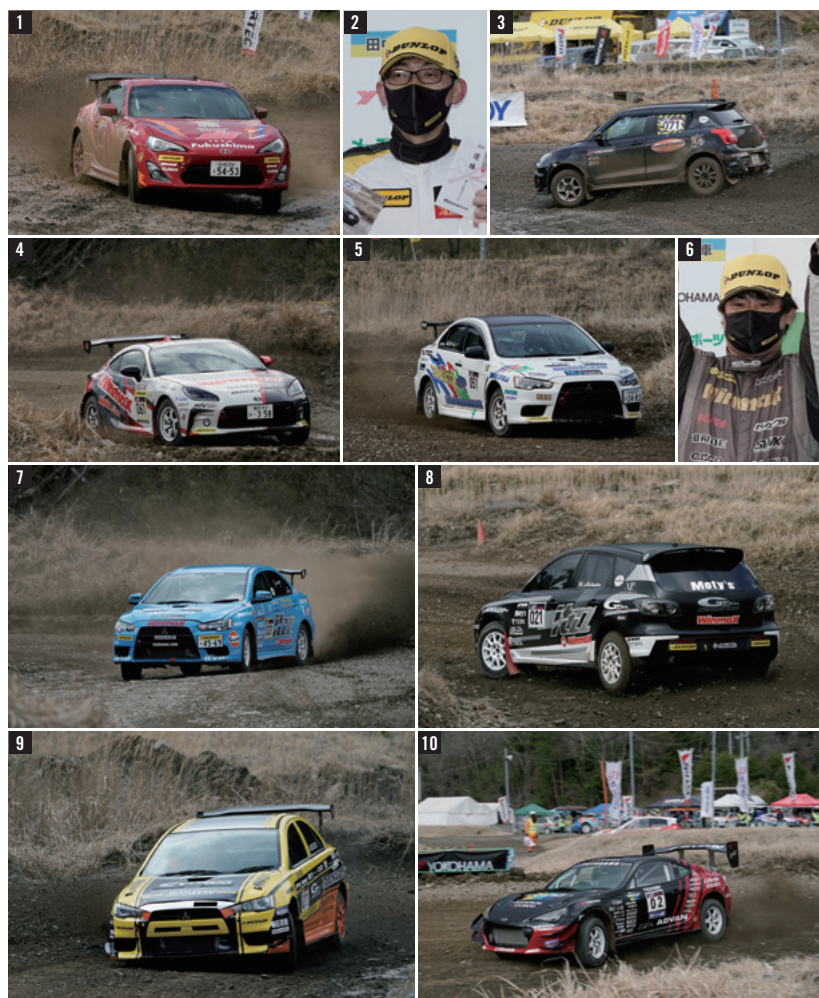
け、まずまずのスタートを切った。この二人を抑えて2位に入賞した志村雅紀は、全日本ジムカーナ時代も一発の速さで知られた元ジムカーナドライバー。ダークホースとなる可能性は十分にある。

JD4クラスは昨年シリーズを制した名手、北村和浩が開幕戦で表彰台を逃すという波乱の幕開けとなった。優勝を飾った荒井信介は、北村の宿命のライバルとも言える存在。今年もこの二人を軸とした戦いになりそうだが、このクラスもGRヤリスで2年目を迎える黒木陽介が躍進できるかも注目の的だ。

JD3クラスもJD4クラス同様、開幕戦は昨年の王者、坂田一也が落とすという展開に。優勝したのはコスモスに絶対の自信を持つ山崎迅人。タイトル奪回に向けて好スタートを切っただけに、このスピードを維持できれば、坂田と互角の勝負に持ち込めるかもしれない。

昨年、4人のウィナーが誕生したJD2クラスはシリーズ3位の亀田幸弘がまず初戦を制した。昨年同様、シリーズ前半で先行を狙いたい王者、目黒亮は5位と沈んで苦難のスタートに。今年は最後まで混戦が続く可能性も出てきた。

JD1クラスは炭山裕矢がV4に向けて幸先の良いスタートを切ったが、ライバル勢にはマシントラブルが相次ぐなど波乱含みのスタートとなった。開幕戦を欠場した鎌田卓麻のスピードが未知数だけに、まだシリーズの行方は不透明だが、開幕戦を見る限りは炭山ミラーズの牙城は固い。打倒炭山の一番手を担うのは誰か。次戦以降の戦いが注目される。



1. JD11クラスは親子で参戦する寺田伸がチャンピオン候補の一人だ。2. JD9クラスは、デミオを駆る2021チャンピオン太田智喜を軸とした戦いになりそう。3. ZC33Sスイフトの事実上のワンメイクになっているJD8クラスは、谷尚樹が昨年同様、前半で独走態勢に持ち込めるかが要注目だ。4. JD7クラスはGR86を駆るチャンピオン山崎利博らの新型勢の速さがタイトルレースのカギを握る。5. JD6クラスはエボXを駆る王者、北條倫史が初戦を落とした。混戦の年になるか!? 6. JD5クラスは若き実力者、細木智矢に誰が迫れるかに要注目。ベテラン勢の奮起に期待。7. JD4クラスは名手、北村和浩が表彰台を逃す波乱のスタートに。しかしNo.1のチャンプ候補であることは間違いない。8. JD3クラスは坂田一也の次戦以降の巻き返しが注目される。9. 群雄割拠のJD2クラスは、V2を狙う若きチャンピオン目黒亮とベテラン勢の戦いが今年も激化しそうだ。10. JD1クラスは王座返り咲きを狙う谷田川敏幸が今年もアツい走りを見せてくれるはずだ。



11. 今季特に注目のJD7クラス。開幕戦は上位6台の中に3台のGR86が喰い込んだ。12. JD1クラスは炭山裕矢が開幕戦で盤石の勝利。ライバル勢の奮起が期待される。

2022年JAF全日本ダートトライアル選手権日程

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦	3月19～20日	2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第1戦 FORTEC CUP 2022 in KYOTO～杉尾啓治 17th メモリアル～	京都コスモスパーク
第2戦	4月9～10日	2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第2戦 RASCAL SPRING TRIAL IN KYUSHU	スピードパーク恋の浦
第3戦	4月23～24日	2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第3戦 DIRT-TRIAL in NASU	丸和オートランド那須
第4戦	5月28～29日	2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第4戦 北海道ダートスペシャル in スナガワ	オートボートランドスナガワ ダートトライアルコース
第5戦	6月18～19日	2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第5戦 2022年東北ダートトライアル IN KIRIYANAI	サーキットパーク切谷内
第6戦	9月3～4日	2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第6戦 スーパードライアル in 今庄	オートパーク今庄
第7戦	10月1～2日	2022年JAF全日本ダートトライアル選手権第7戦 ダートトライアル in タカタ	テクニックステージタカタ

第1戦コスモスパーク／フラットで長方形のコースは真ん中を長いストレートが貫き、多彩なコーナーが待ち構える。第2戦恋の浦／全日本のシリーズの中でも屈指の高低差を誇る。下りを制した者が勝利を得る。第3戦丸和／関東ダート界のメッカ。コースの一部は舗装を使用するため、メリハリの効いた運転が必須。第4戦スナガワ／ジムカーナコース同様、石狩川の河川敷に位置する。2段に分かれた広大なコースは高速コーナーが連続する。第5戦切谷内／青森県、八戸市に隣接する五戸町にあるコース。高速で上りのコーナーを駆け上がるギャラリーコーナーが名物がポイントだ。第6戦今庄／福井県にあるテクニカルコース。独特の硬質路面を持つ。第7戦タカタ／中高速のコーナーが連続するスリリングなダートサーキット。今季誕生した新たなセクションを使用する可能性も大だ。



13. 高速コースとして知られる北海道スナガワの一戦はシリーズを折り返す第4戦として開催される。14. シリーズを締め括る第7戦は今年も広島タカタが舞台。最終決戦が何クラス持ち込まれるか、注目だ。

オートテストで、 モータースポーツを 体験しよう!

いま気軽にモータースポーツを体験できるイベントとして注目されているのが、オートテストだ。モータースポーツ専用の装備はもちろん、競技ライセンスがなくても参加できる。まずは一度チャレンジしてみよう!

オ

ートテストは、運転免許を持っている人なら誰でも楽しめるお気ななモータースポーツだ。ラリーやジムカーナなどでは必要となるJAFのBライセンスがなくてもOK。レーシングスーツやグローブ、ヘルメットといった専用の装備を用意する必要もない。街乗りのクルマで気軽にモータースポーツ気分を味わえるのが、オートテストなのだ。

オートテストには、最大でも200m×200m以内のスペースの中でコースを設定すること、というルールがあるので、スーパーの駐車場のよう、ちょっとした広さのスペースがあれば開催できる形になっている。実際、モータースポーツ専用のコースよりも、こうした立ち寄りやすい場所で、オートテストは数多く開催されている。

またオートテストには最低1回、リバースギヤを使うセクションを設定すること、というルールがある。つまり最低1回は、バックする設定があるのだ。右のコース図を見てほしい。このコースではスタート後、左に大きく切り込んだ後に、右回りでパイロンをクリア。その後はパイロンスラロームやヘアピンターンを繰り返す。その後、左90度のターンをクリアした後は2本のパイロンを前輪だけ通過させて一旦停止する。これは「ラインまたぎ」と言ってオートテストではよく設定さ

れるセクションだ。

リバースギヤを使う注目の「ガレージ」=車庫入れのセクションはその後で、ハンドルを左に切りながらバックする。この際、7本のパイロンで囲われたガレージの中に車体を完全に入れないとペナルティを採られるので、要注意だ。

このように、スピードよりも正確な運転操作が求められ、そのテクニックで順位を競うのがオートテストという競技の特徴になる。

オートテストのコースは事前に主催者のホームページで公開されるのが基本だが、大会当日朝にコース図を渡される場合もある。そういう場合でも、決勝の走行の前にコースを歩いて下見できる慣熟歩行の時間が設けられているので、じっくりとコースのレイアウトを覚えて上で攻略法を考えるようにしたい。

オートテストのコースは大抵、30～40秒程度で走行できるレイアウトが用意されるので、コースを覚え切れないような複雑な設定もまずない。オートテストは大抵、2回走行して、走行タイムやペナルティを換算したポイントで順位を競う。獲得ポイントが少ない人が勝つルールだが、ラインまたぎやガレージが不十分だとペナルティが加算されて、まず優勝は不可能になる。くれぐれも正確なドライビングを心がけて、アタックしよう。



オートテスト・コース図例



「ガレージ」を制する者はオートテストを制す!

オートテストの勝敗を左右するのは、「ガレージ」のセクションだ。「ガレージ」は前進で入ったり、バックで入ったりとバリエーションは様々。「ガレージ」が2度、3度と連続するオートテストもある。また前輪もしくは後輪のみパイロンの間をまたぐ「ラインまたぎ」も、日常ではまずやらない操作だけに、意外と難しい。しっかりと車両感覚を身に付けておきたい。



オートテストは、スーパーマーケットの駐車場程度のスペースがあれば開催できる、身近なモータースポーツだ。



決勝の走行の前には当日のコースを歩いて下見する「慣熟歩行」の時間がある。インストラクターが指導してくれる大会もある。



「カレージ」や「ラインまたぎ」といったセクションの間にはスラローム走行もあり、走る楽しさを味わえる。



オートテストは舗装の路面のほか、グラベルで行われる大会もある。冬の北海道などではスノー路面のオートテストも開催されている。

JAFのサイトでオートテストをCheck! <https://motorsports.jaf.or.jp>

オートテストについてもっと詳しく知りたいという人は、ぜひJAFモータースポーツサイトを覗いてほしい。同サイトのトップページにある、「お手軽参戦! オートテスト」のコンテンツを開いてもらえれば、オートテストの概要をテキストと動画で紹介しているので、よりオートテストへの理解が深まるはずだ。また全国各地のオートテストの開催情報についても随時、更新されているので、最寄りの地域で開催されているオートテストを見つけてほしい。





JAF・Bライセンスを取得して モータースポーツにデビューしよう!

ラリー、ジムカーナ、ダートトライアルなど、モータースポーツを始めるには「Bライセンス」が必要だ。
このライセンスはカンタンに取得できるので、競技に参加してみたい人はぜひ挑戦してみたい欲しい。

Bライ取得の第一歩を踏み出そう!

Bライセンスはラリー、ジムカーナ、ダートトライアルなどのJAF公認競技会に参加するために必要なライセンスで、JAFが発給を行っている。Bライセンス講習会は全国各地で開催されている。これからモータースポーツを始めたいという人は、まず取得に向けて受講してみよう。

誰でもカンタンな講習会とは?

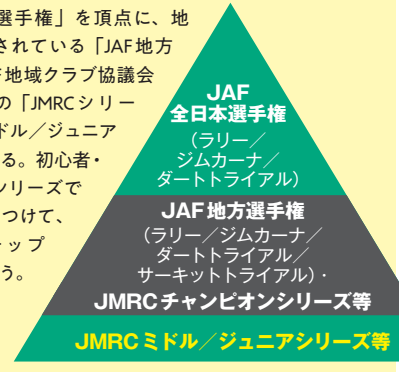
Bライセンス講習会というのは約2時間ほどの講習を受けるだけで、競技ライセンス取得の権利を得られるというカンタンなものなので、難しく考える必要はない。受講資格は普通自動車運転免許証を持っているJAF個人会員であることが条件だが、講習会当日にJAF会員になることも可能なので、JAF会員ではない人も安心して講習会に参加できる。なおJAF個人会員の入会費用は入会金¥2,000円+年会費¥4,000円となっている。

週末のほか平日夜でも開催している

講習会が開催される日程については、JAFモータースポーツサイト等にも掲載されているので、チェックしてみよう! この

Bライ競技のヒエラルキーとは?

「JAF全日本選手権」を頂点に、地域ごとに開催されている「JAF地方選手権」やJAF地域クラブ協議会(JMRC)主催の「JMRCシリーズ」がある。初心者・中級者は下のシリーズでしっかり実力をつけて、全日本へステップアップしていこう。



講習会は大半が土・日・祝日に行われているが、中には平日夜に開催されるケースもある。また競技会の見学会とセットになった講習会をJAF地方支部が企画して行われることもあるので、モータースポーツの雰囲気や間近で感じながら受講してみるのもひとつの方法だ。

モータースポーツの基礎を学ぼう!

さて気になる講習会の内容は、モータースポーツの競技規則、マナーやルール等を、テキストや映像でレクチャーするもので、実技や試験があるわけではない。ただし、赤旗や黄旗の意味などは競技参加時には必ず知っておかなければならないものなので、しっかり聞いて覚えておこう。なお講習会の費用は受講料が¥4,100円以内、教材費が¥1,000円以内となっている。

ライセンスは2〜3週間で届く

講習会が終わると、最後に「ライセンス交付申請書」がもらえるので、必要事項を記入して写真と申請料¥3,100円を添えて、30日以内に最寄りのJAF支部に申請すればOKだ。JAF支部に行けないという人は、講習会の主催者が代理で申請してくれるケースもある(別途、手数料が必要な場合あり)。そして申請後、約2〜3週間でライセンスが手元に届く。写真が入った自分だけのライセンスだ。

競技情報はホームページでチェック

競技会の日程、モータースポーツの各種情報についてはJAF

JMRCのホームページを活用しよう!

競技会に参加する際に頼りになるのがJMRC(JAF登録クラブ地域協議会)のホームページだ。初心者・中級者が対象の競技会情報等も掲載されているので、自分のスキルに合った大会を探し出すことができる。各シリーズの日程や規則、JAF登録クラブ・団体への連絡先も網羅されているので、Bライセンスを取得したらブックマークに登録しておくとも良いかも!



分かりやすいテキスト等を用いてルールをしっかりと学ぶことができる。



講習会では競技に役立つ規則等を、約2時間でレクチャーしてくれる。

モータースポーツホームページに掲載されているので、ぜひ活用してみたい欲しい。きっとキミのモータースポーツライフを充実したものにしてくれるはずだ。

全国 JAF 公認 B ライセンス 競技コース一覧

2022年1月1日現在

ジムカーナコース

オートスポーツランドスナガワ ジムカーナコース (北海道・砂川市)
新千歳モーターランド・アクティブ・セーフティ・パーク (北海道・千歳市)
十勝スピードウェイ ジュニアコース/ジムカーナコース (北海道・更別村)
岩木山スキー場駐車場 (青森・弘前市)
モーターランドSP (青森・南部町)
スポーツランドSUGO 国際西コース (宮城・村田町)
新協和カートランド (秋田・大仙市)
エビスサーキット西コース (福島・二本松市)
茨城中央サーキット (茨城・石岡市)
筑波サーキット コース1000/ジムカーナ場 (茨城・下妻市)
ツインリンクもてぎ マルチコース/南コース (栃木・茂木町)
日光サーキット (ドリフト競技に限定) (栃木・宇都宮市)
GR Garage 宇都宮つくるま工房
つくるまサーキット那須 (栃木・那須塩原市)
宝台樹スキー場・駐車場 (群馬・みなかみ町)
GOLDEX 本庄モーターパーク (埼玉・本庄市)
浅間台スポーツランド (千葉・香取市)
R-Spec Kazizaki (新潟・上越市)
スピードパーク新潟 (新潟・胎内市)
さくらモータースポーツランド (長野・飯田市)
イオックスアローザスポーツランド (富山・南砺市)
大日スポーツランド (石川・白山市)
福田自動車教習所 (静岡・磐田市)

富士スピードウェイ ジムカーナコース/ショートサーキット (静岡・小山町)
キョウセイドライバード (愛知・岡崎市)
スパ西浦モーターパーク (愛知・蒲郡市)
美浜サーキットニモト (愛知・美浜町)
鈴鹿サーキット 国際南コース (三重・鈴鹿市)
奥伊吹モーターパーク (滋賀・米原市)
舞洲スポーツアイランド (大阪・大阪市)
姫路セントラルパーク 第5駐車場 (兵庫・姫路市)
名阪スポーツランド Cコース/Eコース (奈良・山添村)
備北サーキット (岡山・新見市)
なださきレークサイドパーク (岡山・岡山市)
岡山国際サーキット (岡山・美作市)
スポーツランドTAMADA (広島・広島市)
TSタカタサーキット (広島・安芸高田市)
徳島カートランド (徳島・吉野川市)
瀬戸内海サーキット (愛媛・西条市)
ハイランドパークみかわ ジムカーナコース (愛媛・久万高原町)
モーターランドたちかわ (高知・大豊町)
スピードパーク恋の浦 (福岡・福津市)
HSR九州ドリームコース (熊本・大津町)
オートポリス レイクサイドサーキットコース (大分・日田市)
モータースポーツマルチフィールド沖縄 (沖縄・沖縄市)

ダートトライアルコース

オートスポーツランドスナガワ ダートトライアルコース (北海道・砂川市)
糠平湖水上コース (北海道・上士幌町)
イーストジャパンオフロードスタジアム (北海道・士幌町)
サーキットパーク切谷内 (青森・五戸町)
エビスサーキット 西コース (福島・二本松市)
丸和オートランド那須 (栃木・那須塩原市)
NATSダートコース (千葉・成田市)
モーターランド野沢 (オートクロスコースとしても公認) (長野・野沢温泉村)
輪島市門前モータースポーツ公園 (石川・輪島市)
オートパーク今庄 (福井・南越前町)
池の平ワンダーランド (愛知・豊田市)
京都コスモスパーク (京都・京都市)
テクニクスステージタカタ (ツイントライアル可) (広島・安芸高田市)
楠ハイランドパーク (山口・宇都市)
香川スポーツランド (香川・さぬき市)
スピードパーク恋の浦 (福岡・福津市)

本誌の記事内容は2022年2月末までの情報を元にしております。社会情勢によって掲載した情報内容が変更される可能性がございます。予めご了承ください。

CLUB Bは
WEBでも見れます!

本誌「CLUB B」Vol.39はWEBでもご覧になれます。
下記のホームページをご参照ください。
JAFメディアワークスホームページ <https://www.jafmw.co.jp/>

CLUB B Vol.39
Bライセンスモータースポーツ
応援マガジン

発行所
発行人
編集人

株式会社JAFメディアワークス
〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9-10F
西岡 敬明
佐藤 均

デザイン 鎌田 偉
編集 株式会社JAFメディアワークス
☎03-5470-1712
本誌掲載の記事や写真の無断複写・複製・転載を禁じます。

HPI

今年も全開!!
レーシングスーツを着て
モータースポーツを楽しもう!!



HPI YARIS PARTS series

車両無加工で
車両剛性 UP! & 6 点ベルト取付!

HPI 最大 O/C コア採用!

特許取得済 特許第 5792371 号

6 点式ハーネスを車両無加工で取り付けることができ車両価値を上げません。
特許取得の HPI フロアバーは某レースレギュレーションでも公認の高剛性で
左右セットで取り付けることで車両剛性をアップさせます。

FLOOR BAR

HPI 最大サイズの W5 コアを大胆にフロントグリル内にレイアウト! グリルより走行風を
取り入れコアを通りオイルを冷やしレインホースの凹凸を利用し両サイドに走行風を排熱。
最大 O/C コアの採用で GR ヤリスの高い発熱量に対して最大限の冷却性能を発揮。

SIDE TANK OIL COOLER KIT

INTER COOLER KIT

全 11 色!!
4 点式 & FHR 対応 6 点式!

4 点式は日本車 (右ハンドル車両) の場合、バックルが腰ベルトの外側もしくは
内側に残る " 外側バックル (L) " と " 内側バックル (R) " がお選びいただけます。
センターコンソールが狭い車両などは外側バックルが使いやすい場合もございます。
FHR 対応 6 点式は股下バックルとなっており左右設定はございません。

RACING HARNESS

FIA 規格適合

ヤリスカップカー等の
純正ロールバーパッドを保護!

ROLLBAR PAD

NA ヤリス (M15A) 専用
オイルアタッチメント!!

某 S 耐チーチームと共同開発した 1.5L・NA ヤリス専用アタッチメント

MXPA10 OIL ATTACHMENT

www.hpi.co.jp



HPI CIRCUIT 2022 MEETING
詳しくはホームページまで in 袖ヶ浦 FRW

第 8 回 10/30 sun



CUSCO SPORT

スポーツシリーズ車高調



ハードな走り応えるサーキット走行対応本格スペック

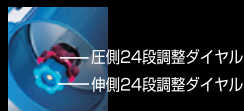
- 単筒式ショックアブソーバー ●倒立式ショックアブソーバー (フロント) ●全長調整式車高調整
- フロントキャンバー調整可能 (キャンバー調整カラー) ●CUSCO SPORT「Blue spring」標準設定



クスコスポート ティーエヌアール



クスコスポート アール



キャンバー調整カラー



CUSCO LSD
type-**RS**
type-**MZ**



CUSCO SPORT G

減衰力 24段階調整



クスコスポート ジー 競技専用

ジムカーナ、ターマック競技用 ラリー、ダートトライアル、グラベル競技用

- 単筒式大容量ショックアブソーバー
- アッパーマウントレス ※グラベル競技用 リヤストロークアップピロアッパーマウント付仕様あり
- 倒立式ショックアブソーバー (フロント) ●高性能ニードルバルブ式 前・後減衰力24段階調整
- フロントロウブラケットキャンバー調整式 (キャンバー調整カラー)
- 完全受注製作：購入時に減衰、ストロークの指定可能
- ※スプリングはキットに含まれません (別売設定)
- ※JAF公認競技Nクラス向けに純正形状アッパーマウントに対応

ジムカーナ、ターマック競技用
フロントイメージ



可倒式牽引フック (フロント/リヤ)
高強度スチール一体成型
90°可倒タイプ

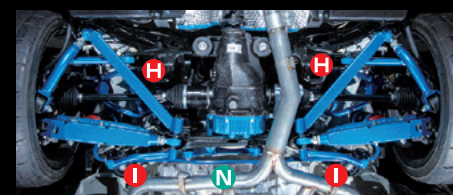
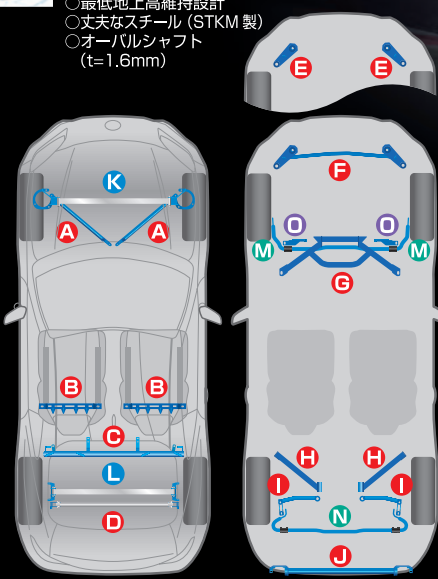


ストラットバー
オーバーシャフト・ストラットバー (Kフロント Lリヤ)

- シンプルながら効果の高いボディ補強の基本
- ストラットを左右に均等ハンドリングを向上
- エンジンルーム内のドレスアップ効果も抜群

パワーブレース

- ボディやメンバーのねじれや歪みを抑制
- ボディ剛性強化でサスペンション本来の性能を発揮
- 簡単ボルトオン装着
- 最低地上高維持設計
- 丈夫なスチール (STKM 製)
- オーバーシャフト (t=1.6mm)



スタビライザー

- 乗り心地を変えずにコーナリング時のロールを抑制
- 高速走行のフラつきを抑え、レーンチェンジの安定感を向上
- フロント M：中実φ20 (GR86 純正中実φ18・純正比 174% / BRZ 純正中実φ18.3)
- リヤ N：中実φ16 (GR86 純正中実φ15・純正比 134% / BRZ 純正中実φ14・純正比 168%)

設定パーツ	税込価格
車高調整サスペンションキット	
CUSCO SPORT TN-R	¥338,800
CUSCO SPORT R	¥272,800
CUSCO SPORT G ターマック競技用 (アッパーマウントレス)	¥239,800
CUSCO SPORT G グラベル競技用 (アッパーマウントレス)	¥300,300
CUSCO SPORT G グラベル競技用 (フロント・アッパーマウントレス) ※リヤ・ストロークアップピロアッパーマウント付	¥316,800
サスペンションパーツ	
M スタビライザー (フロント)	¥26,400
N スタビライザー (リヤ)	¥25,300
調整式スタビリンク ユニバーサルタイプ (ロッド長 155/195mm)	各¥21,780
調整式ピロスタビリンク リヤ (調整範囲 73 ~ 87mm ボルト軸間)	¥19,800
①リヤラテラルリンク (フロント側)	¥49,500
②リヤラテラルリンク (リヤ側)	¥47,300
③トローリングロッド	¥38,500
調整式リヤアッパーアーム	¥58,300
ワイドトレッドロウアーム (調整範囲 ±0/+5/+10mm)	¥66,000

ロールケージ SAFETY21

SAFETY21 6 速マニュアル車用 (4 点式~10 点式)	¥55,000~
SAFETY21 アイサイト付 AT 車用 (4 点式~10 点式)	¥55,000~
D1 ロールバー 6 速マニュアル車用 (4 点式~8 点式)	¥68,200~
D1 ロールバー アイサイト付 AT 車用 (4 点式~8 点式)	¥68,200~

SAFETY21 6 速マニュアル車用 (9 点式) 装着例

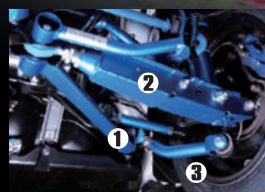


設定パーツ	税込価格
ボディ補強パーツ ※EとFの同時装着不可	
A パワーブレース エンジンルーム	¥16,500
B パワーブレース シートレールプラス	¥20,900
C パワーブレース リヤトランクバープラス	¥24,200
D パワーブレース リヤビラー	¥13,200
E パワーブレース フロントロウアーム	¥13,200
F パワーブレース フロントロウアームプラス	¥18,700
G パワーブレース フロントメンバー (AT 車取付不可)	¥22,000
H パワーブレース リヤメンバーサイド	¥18,700
I パワーブレース リヤラテラルスタビ (BRZ 取付不可)	¥16,500
J パワーブレース リヤエンド	¥12,100
ストラットバーOS (K フロント・L リヤ)	各¥16,500
ストラットバーOS BCS 付 (フロント)	¥22,000
ブレーキシリンダーストップパー (BCS)	¥9,350
ブレーキペダル補強プレート	¥19,800
O ステアリングラック補強ステー	¥9,900

CUSCO LSD

type-RS 1Way 35° or 45° 1.5Way 35° / 20° or 45° / 20°	¥125,400
type-RS 2Way 35° / 35° or 45° / 45°	
type-MZ 1Way 35° or 45° 1.5Way 35° / 20° or 45° / 20°	¥124,300
type-MZ 2Way 35° / 35° or 45° / 45°	

※LSDの効き始めをマイルドにセッティングしたスペックFの設定もあります



サスペンションアーム

- ①リヤラテラルリンク フロント側
- ②リヤラテラルリンク リヤ側
- ③トローリングロッド



ワイドトレッドロウアーム

キャンバー角をネガティブ方向に3段階で調整が可能
調整範囲 ±0/+5/+10mm



ドライブシャフト連熱板

マフラーの熱からドライブシャフトを保護します



レベルゲージストッパー

オイルレベルゲージの抜けを防止します



リヤメンバーカラー

リヤサブフレームゴムブッシュをアルミカラーでリジッド化し、レスポンスやトラクション性能を向上させます



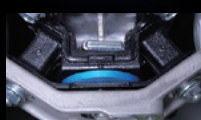
容量アップデフカバー

リヤデフオイル容量アップで油温上昇を抑制し、LSDの効きの安定化とトラブルを防止します



リヤデフマウントカラー

アルミ製カラーでデフキャリアの動きを抑制し、レスポンスとトラクション性能を向上させます



ミッションマウントカラー

アルミ製カラーで純正マウントブッシュを強化、たわみを抑えシフト操作性を向上させます

設定パーツ	税込価格
インテリア / エクステリア	
可倒式牽引フック (フロント・リヤ)	各¥10,780
スポーツアクセルペダル	¥4,180
スポーツシフトノブ	¥4,180
スピンドルノブ (ブルー / シルバー / レッド)	各色 ¥2,200
ブッシュ / カラー	
ステアリングラックブッシュ	¥9,900
ステアリングラックブッシュ SST (交換専用ツール)	¥3,300
シフトリテーナーブッシュ	¥3,300
ミッションマウントカラー	¥5,500
リヤメンバーカラー	¥27,500
リヤデフマウントカラー (前側・後側)	各 ¥13,200
エンジン	
オイルレベルゲージストッパー	¥13,200
ネオジムアルミドレンボルト	¥1,980
スポーツオイルフィルター	¥2,750
ハイプレッシャー ラジエーターキャップ	¥2,750
その他駆動系パーツ	
シフタースプリング	¥5,500
ドライブシャフト連熱板	¥6,600
容量アップデフカバー (ブルー / シルバー)	各色 ¥74,800
強化レリーズフォーク&ピボット	¥27,500



ネオジムアルミドレンボルト
4500 ガウスの強力なネオジム磁石によりエンジンオイル内の鉄粉を吸着しオイルをクリーンに保ちます
サイズ：M16×P1.5



スポーツシフトノブ
ジュラコン製球形状



スポーツアクセルペダル
ヒール&トックの操作性を向上
ステレックス鏡面仕上げ
純正ペダルに被せる簡単取付

CUSCO RACING HARNESS



4-Point ブルー BLUE レッド RED ブラック BLACK

税込価格¥36,080
○肩ベルト：3inch ○腰ベルト：3inch ○アイボルト：4本付属
○CUSCOロゴ入りファブリック製ワッペン

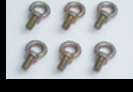
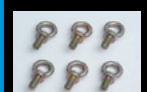


6-Point ブルー BLUE レッド RED ブラック BLACK

税込価格¥52,580
○肩ベルト：3inch ○腰ベルト：2-3inch ○腰ベルト：3inch ○股ベルト：2inch ○アイボルト6本付属
○CUSCOロゴ入りラバー製ワッペン

6-Point FHR (6点式 FHRデバース専用モデル)
FIA APPROVED
FIA 8853-2016
ブルー BLUE
レッド RED
ブラック BLACK
税込価格：¥52,580
○肩ベルト：3inch
○腰ベルト：2-3inch
○腰ベルト：3inch
○股ベルト：2inch
○アイボルト6本付属
○CUSCOロゴ入りラバー製ワッペン

6-Point
FIA APPROVED
FIA 8853-2016
ブルー BLUE
レッド RED
ブラック BLACK
税込価格：¥52,580
○肩ベルト：3inch
○腰ベルト：3inch
○腰ベルト：3inch
○股ベルト：2inch
○アイボルト6本付属
○CUSCOロゴ入りラバー製ワッペン



●乗降の際にゴム紐などで各ハーネスを吊り上げる事ができるように「サポートループ」標準装備



上記以外の適合車種、価格はCUSCOホームページをご覧ください
<https://www.cusco.co.jp>



株式会社キャロッセ 群馬県高崎市新保町1664-1 〒370-0018 Phone (027) 352-3578 (代) Facsimile (027) 352-1919

